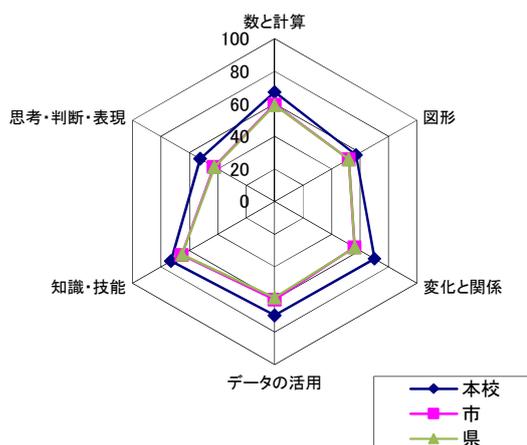


宇都宮市立錦小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.3	59.7	59.2
	図形	57.1	52.1	52.1
	変化と関係	70.2	56.1	56.3
	データの活用	69.7	60.1	58.9
観点	知識・技能	73.0	65.5	65.1
	思考・判断・表現	52.5	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の正答率を上回っている。 ○数直線上の目もりが示す分数を読み取り、仮分数で表す問題では、県の平均正答率を23.3ポイント上回った。 ●小数のしくみの理解については、正答率が86.5%で、県の正答率よりも6.1ポイント下回ったものの、小数の大きさを理解しているかを問う問題では、正答率が63.5%で、県の正答率よりも18.4ポイント高かった。 ●四則混合の式の計算の順序を理解しているかを問う問題では、正答率が49.5%で、県の平均正答率を3.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数の概念について理解を深めていく学習において、短答式よりも選択式の回答では高い正答率が見られた。授業では、数直線を利用するなど、指導法や教材の工夫・改善を図るとともに、自分の考えをしっかりともち、自信をもって取り組むように支援していく。 ●家庭学習や朝の学習の時間を活用して、繰り返し計算問題に取り組むようにし、見直す習慣をつけたり正確に計算したりさせていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の正答率をやや上回っている。 ○面積の単位の関係を説明した文の空欄に数をあてはめる問題では、県の平均正答率よりも16.5ポイント高い正答率だった。 ●面積の単位の関係を説明した文の空欄に数をあてはめる問題は高い正答率であったものの、他の図形の問題に比べ無解答率が9.6%と高く、個人差に課題がある。 ●ひし形の作図の問題では、正答率が63.5%で、県 	<ul style="list-style-type: none"> 分度器やコンパス、三角定規などを用いて作図する機会を意図的に増やし、正しく作図したり、図形の性質を理解したりできるように指導を継続していく。 ●面積の問題では、長さを図るなどの実体験を伴うような活動を取り入れ、より身近に感じさせたり広さの感覚を身に付けさせたりする。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の正答率を上回っている。 ○表を横に見て周りの長さがいくつふえているかを答える問題では、正答率が94.2%で県の正答率を12.7ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題は、正答率が28.9%で県の平均より3.9ポイント上回っているものの課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動において、2つの数量の関係に着目して、それらの数量について児童が進んで「考えたい」と思うような場面を設定する。 ●伴って変わる2つの量の規則性に気付くようにし、表や式、グラフ等と関連付けながら考える活動を大切にしていく。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の正答率を上回っている。 ○2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題では正答率が94.2%で、県の正答率より16.5ポイント高かった。 ●二次元表を用いて条件にあてはまる人数答える問題では、他のデータの活用に関する問題に比べ正答率が県の正答率を16.2ポイント上回ったものの38.5%と低く、また、無解答率も26.9%と課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフを用いた様々な練習問題に取り組ませたり、答えを導くために必要な部分の見つけ方やその手順を説明する機会を多く設けたりして、データ活用能力の育成を図る。 ●表やグラフの学習では、データの特徴や傾向を多面的に把握したり、事象を注意深く考察したりする等、問題解決の過程を意識できるように指導する。また様々な活動において、身の回りの事象をデータから捉え、問題解決場面に生かす活動を取り入れ、日頃より関心を高めていく必要がある。